



# 〈公開〉作品にみる生と死Ⅱ

死生学研究所

□会場 東洋英和女学院大学大学院  
(六本木) 201教室  
東京都港区六本木5-14-40

□最寄駅 六本木駅 (日比谷線徒歩10分)  
麻布十番駅 (大江戸線徒歩5分)  
(南北線 徒歩7分)

□参加費 各回500円  
□事前申込み 不要  
□先着 100名様

## 第3回 研究会

10月9日 (土)  
14:40-16:10  
(受付14:10から)

### ■プロフィール

東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。博士(宗教学)(國學院大學)。國學院大學日本文化研究所助手、同大学研究開発推進機構助教を経て2010年より現職。専門は宗教学、日本宗教史(近世・近代)。特に、近世後期から明治期にかけての国学・神道に注目してきた。

### ■主要業績

『東京帝国大学神道研究室旧蔵書』(共著)東京堂出版、1996年。『ワードマップ 神道』(共著)新曜社、1998年。『日本史小百科 神道』(共編著)東京堂出版、2002年。『平田国学と近世社会』ベリかん社、2008年。

## 遠藤 潤

(えんどう じゅん)

國學院大學研究開発推進機構准教授

## 近世日本のスピリチュアリズム —文人の著述にみる—

内容紹介： スピリチュアリズムを人間と靈魂の交流ととらえるならば、それは日本の宗教史においては、あえて言挙げするまでもないほど一般的な現象でした。しかし、そうした現象に対する視線は、時代によって異なっていたと考えられます。江戸時代には、靈的現象は宗教的な関心ばかりでなく、人々の世俗的な好奇心からも注目を集め、靈魂や妖怪に関する物語や図像などが社会にさまざまな形で流通しました。同時代の文人たちは靈魂や妖怪などに関する話を実話や噂として随筆のなかに書き留めます。今回は、これらの記述を検討しながら、その前提にある関心の信仰的性質と世俗性、また靈的現象をめぐる虚と実などについて考えたいと思います。

## 第5回 連続講座

10月9日 (土)  
16:20-17:50

### ■プロフィール

1959年生まれ。旭川医科大学卒業、国立武蔵療養所現 国立精神・神経センター武蔵病院にて臨床研修。早稲田大学第一文学部哲学科卒、同大学院博士後期課程満期退学。1999年に群馬大学助教授。2003年より現職。

### ■主要業績

『医療倫理のABC』(共著)メチカルフレンド社、2004年。『臨床倫理学と文学』『医学哲学医学倫理』第28号、日本医学哲学・倫理学会、2010年9月刊行予定印刷中。『ドラマで考える医療倫理』(企画・監修)全8ケースDVD2枚組、アールメディカル2009年。

## 服部健司

(はっとり けんじ)

群馬大学大学院医学系研究科  
教授(医学哲学・倫理学)

## ドラマで考える医療の倫理

内容紹介： 最先端の医療技術や研究推進の是非を考えるのもまた医療倫理の一部ですが、私は、医療の場という非日常的な場において患者や家族、医療者はどのように振舞うことがゆるされるのか、望ましい医療とはどのようなものなのかを具体的に考えることを医療倫理の中心に置いています。そうした問いに向き合うのに必要なのは、倫理学の諸説を学び、知識をもっていることでしょうか。医療(倫理)という呼び名とらはらに、むしろ文学の方がいっそう近いのではないかと考えています。私たちが制作したドラマケースをご覧いただきながら、医療倫理と文学との関わりを探っていきましょう。

### シンポジウム「生と死とその後」

10月30日(土) 14:40-17:50 参加費1,000円  
参加ご希望の方は右記死生学研究所までお申し込み下さい。当日申込みも受け付けます。

奥野弥子 順天堂大学医学部院任准教授

(緩和医療部から) 妻の死後も対話を続けた男性

杉木恒彦 早稲田大学高等研究所客員研究員

(文化人類学/インド宗教から) インド密教の聖人たちの生と死とその後

鶴岡貴雄 東京大学大学院人文社会系研究科教授

(宗教学から) 「死後の生」と「宗教の領分」



シンポジウムお申込先

東洋英和女学院大学死生学研究所  
shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp  
03-3583-4035 (fax専用)